

カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネービス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2021年3月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 各国で新型コロナ・ワクチン接種が始まり、まずはインドから寄贈のあったワクチンが使用された。一部の国では、中国製ワクチンの寄贈を受けた他、ロシア製ワクチンの入手の動きもある。米英等先進国にワクチン確保への協力要請がなされた。
- セントビンセントのラ・スフリエール火山は、危険レベルはオレンジのままであるが、同火山地下での地殻変動による地震活動が継続している。
- セントルシア赤十字及びセントキッツのネービス島の病院への草の根・人間の安全保障無償協力の署名式が各々オンラインで実施された。
- OECSは特別首脳会合を開催し、テドロスWHO事務局長の出席を得て、コロナ禍対策を協議した。また、6月のOECS設立40周年に向け、祝賀行事が開始された。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- 1日付アンティグア紙は、同日よりワクチン接種が開始され、まずは65歳以上の高齢者に対して実施されると報道。
- 1日付セントキッツ紙は、ハリス首相はインドからの2万回分のワクチン引き渡し式で、G7始め先進国に対し途上国のワクチン確保への支援を要請したと報道。2日付セントキッツ紙は、同国は2千回分のワクチンをグレナダに供与したと報道。
- 1日、セントルシア政府は、インド寄贈のワクチン2万5千回分が到着したと発表。2日付同国紙は、その内5千回分がグレナダに供与されたと報道。
- 1日付セントビンセント紙は、インド寄贈のワクチン4万回分が到着したと報道。3日付同紙は、ゴンザルベス首相がワクチンの有効期限は6月末であり、早期の接種を呼びかけたと報道。
- 2日、OECS事務局は、インドからOECS各国向けの寄贈ワクチンがアンティグアに到着したと発表。（ドミニカ分は2月に受領済み）
- 3日付グレナダ紙は、ジョセフ外務大臣は、ベネズエラがワクチン購入のため

に20万米ドルを寄贈したと発表したと報道。

●4日付ドミニカ紙は、同日中国寄贈のシノファーム・ワクチン2万回分が到着したと報道。

●8日付セントビンセント紙は、ファースト・カリビアン銀行は、同国を含むカリブ諸国に対しワクチン購入資金として総額50万米ドルを寄贈すると発表したと報道。

●11日付アンティグア紙は、閣議で中国及びロシア製ワクチンの輸入が承認されたと報道。

●11日付グレナダ紙は、EUはカリブ公衆衛生庁（CARPHA）を通じて、グレナダに対し防護服、手術及び医療マスクを各2,500枚提供すると報道。

●11日、セントルシア政府は、夜間外出禁止時間の変更等現行の規制措置を一部修正の上、4月16日まで延長すると発表。

●15日付アンティグア紙は、英公衆衛生庁がアンティグアに渡航した英国人2人から新たな変異種が見つかったと発表し、英国紙がアンティグア変異種と報じたことに対し、ブラウン首相は英国に対し、訂正、謝罪、賠償を求めたと報道。

●12日付セントルシア紙は、保健省は、欧州の一部で血栓の問題でアストラゼネカの使用を中止する動きがあるが、同国では同ワクチンの使用を続けると述べたと報道。

●18日付アンティグア紙は、20日に同国の総感染者数が千人を超え、1,008人となったと報道。

●18日付グレナダ紙は、スティール保健大臣は、同国はWHOが承認した以外のワクチンは使用しないと述べたと報道。

●21日付ドミニカ紙は、ブラウン・アンティグア首相は、バイデン米大統領に対し、カナダ及びメキシコに加え、カリコム諸国にもワクチンの提供を要請する書簡を発出したと報道。

●22日付セントキッツ紙は、ブラントリー外務大臣は、駐バルバドス米国大使を通じて、米国がカリブ諸国にワクチンを提供するよう要請したと報道。

●23日付グレナダ紙は、保健省は、ロシア直接投資基金との間で、スプートニクVワクチンの登録及び配布に関する協力合意に署名したと報道。

●23日付セントキッツ紙は、政府は、ブラジル、英国及び南アからの渡航者に科している渡航制限を30日間延長したと発表したと報道。

●30日付グレナダ紙は、同国に入国したジャマイカ人から同国初となる英国変異種が確認されたと報道。

●30日付セントルシア紙は、政府はイースター休暇中の夜間外出禁止時間の一部強化を発表したと報道。

● 30日付セントルシア紙は、英国高等弁務官事務所は、税関及び警察に個人防護服等を寄贈したと報道。

(2) その他内政

● 9日付ドミニカ紙は、カリブ司法裁判所は、14年12月の同国総選挙の際に、与党ドミニカ労働党候補が有権者に食事等を提供したことが票の買収に当たると野党統一労働党が訴えていた訴訟で、野党側の訴えを退ける判決を下したと報道。

● 19日付セントキッツ紙は、ハリス首相は、議会で金融事業等改正法案が可決され、これにより資金洗浄、テロ資金供与、大量殺戮兵器等の撲滅に向けた法的枠組みが出来たと述べたと報道。

● 24日付アンティグア紙は、昨年11月に女性からの告発を受けて辞任、その後逮捕されたブラウン前教育大臣に関して、検察は十分な証拠があるとして訴追手続きを続けることを決定したと報道。

● セントビンセントのラ・スフリエール火山の状況は、その後も大きな変更はなく、危険レベルもオレンジのままであるが、25日に現地国家緊急管理機関（NEMO）は、同火山地下での地殻変動による地震活動が継続しており、近隣地区で体感できるほどのものと発表。

3. 経済

● 1日付ドミニカ紙は、日本の無償資金協力によるロゾー水産施設改修工事は、コロナ禍の影響で請負業者選定が出来ておらず、工事実施が遅れていると報道。

● 4日付セントキッツ紙は、ヘイゼル財務次官は、21年の同国成長率予測は5.5%と述べたと報道。

● 8日付カリコム紙は、ブラウン・アンティグア首相（金融問題担当カリコム首脳）は、米議会でリスク回避に関する指令を含む法案が成立したことはカリブ諸国にとって大きな勝利と述べたと報道。

● 10日、セントルシア赤十字社に対し福祉車両購入を支援するための草の根・人間の安全保障無償資金協力（35,090米ドル）のオンライン署名式が行われ、平山大使とギラード事務局長が贈与契約に署名した。

● 11日、セントキッツのネービス島のアレクサンドラ病院にPCR検査機器購入を支援する草の根・人間の安全保障無償資金協力（65,774米ドル）のオンライン署名式が行われ、セントキッツ側より、ブラントリー外務大臣兼ネービス島首相、ブランディ＝ウィリアムズ・ネービス島保健・ジェンダー担当大臣が出席し、平山大使とペンバートン同病院理事の間で贈与契約署名を行った。

● 12日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、新国際空港建設に必要な用地の買収が完了したと述べたと報道。

- 15日付グレナダ紙は、20年末時点の同国の公的債務は約20億東カリブドルとGDP比70.4%に上ったと報道。
- 18日付セントルシア紙は、17日議会に総額16億東カリブドルの21/22年度予算案が提出され、教育及び保健が重要な柱となっていると報道。
- 18日付グレナダ紙は、中国からの第7次農業支援技術協力が終了したことに伴い、中国からの農業関連器具の引渡式が実施され、デービッド農業大臣が出席したと報道。
- 22日付セントルシア紙は、西インド諸島大学バルバドス校資源管理・環境研究所は、今年の東カリブ諸国へのサルガッサム海藻の流入見込みは、中から高程度と発表したと報道。
- 25日付ドミニカ紙は、政府は、カリブ競争パートナーシップ・ファシリティ(CCPF)から地域社会基盤の観光業のため40万米ドル相当の技術協力を受けると発表したと報道。
- 30日付セントビンセント紙は、世銀はセントビンセント経済成長率を21年は0.2%、22年は5.0%と予測したと報道。

4. 外交

- 5日付グレナダ紙は、3日同国とルワンダは外交関係樹立のための共同声明を両国国連大使の間で署名したと報道。
- 15日、OECS事務局は、6月18日のOECS設立40周年記念日に向けて、祝賀行事のオンラインでの実施を開始したと発表。
- 19日、OECS第6回特別首脳会合がオンラインで開催され、スケリット・ドミニカ首相が議長を務め、テドロスWHO事務局長も出席した。会合では、新型コロナ・ワクチンの状況、コロナ禍からの安全かつ持続可能な経済回復、資金調達等が協議された、共同声明が発表された。
- 24日付セントビンセント紙は、米下院議員団とセントビンセント議員団のビデオ会合が行われ、コロナ禍対策等を協議した、米側はプライス下院民主主義パートナーシップ委員長他超党派議員、セントビンセント側は、フォーデ議長、キング教育大臣、フライデー野党党首等が出席したと報道。
- 27日付セントキッツ紙は、同国とスリランカは、両国の国連大使の間で共同声明を署名し、外交関係を樹立したと報道。
- 30日付ドミニカ紙は、スケリット首相を団長とする同国政府団と東カリブ地域担当の国連機関チームとのビデオ会合が実施され、国連とドミニカの協力強化、ドミニカの優先事項支援に向けた工程表等が協議されたと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたもの

ではありません。